

次世代に伝える 静岡県の戦争の記憶と記録

令和7年（2025年）、先の大戦が終結した昭和20年（1945年）から80年という、大きな節目を迎えました。

戦後に生まれた方が人口の9割を占めるようになり、戦争の記憶は風化の一途をたどっています。悲惨な戦争を二度と繰り返さないという固い決意のもと、80年もの長きにわたり平和を守ってきた先人たちの思いを引き継ぎ、これからも平和を守り続けていくため、静岡県の戦争の記憶や記録を次世代に伝える資料として、御活用いただくと幸いです。

静岡県出身者の戦没地別戦没者数 (単位：人)

先の大戦では、静岡県からも約32万人が中国大陸、アジア各地、南太平洋、沖縄などの戦地に赴きました。過酷な戦場に倒れ、飢えや病に苦しみながら7万人以上もの方々が命を落としました。

また、終戦とともにシベリアやモンゴルなどに抑留された方々は、酷寒の地で過酷な労働を強いられました。食料不足や寒さに苦しめ、郷里への帰還を果たせないまま亡くなった方も多数いました。

遺骨収集の現状

海外で戦没した日本人は約240万人にのぼり、令和6年12月末時点で約112万柱の御遺骨がまだ現地に残されています。厚生労働省は、昭和27年から遺骨収集を実施してきました。平成28年度には「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」(平成28年法律第12号)が成立し、国の責務として、令和11年度までを集中実施期間として、遺骨収集事業が行われています。

①海外戦没者概数	2,400,000人
②未収容遺骨概数	1,123,000柱

②の内訳

海没	約30万柱
相手国の事情により収容困難	約23万柱
収容可能な遺骨概数(最大)	約59万柱

出典：厚生労働省「地域別戦没者遺骨収集用概見図(R6.12)」

中国残留邦人等

戦後の混乱の中、肉親と離別して孤児となり中国の養父母に育てられるなど、中国や樺太に残留を余儀なくされた日本人を中国残留邦人等といいます。昭和47年(1972年)の日中国交正常化以降、一時帰国や永住帰国される方が増え、これまでに永住帰国した中国残留邦人等は全国で約2万人、静岡県で239人を数えます(御家族を含む、令和6年(2024年)12月末現在)。

多くの方は中高年になって帰国したため、日本語の習得にも困難がありました。安定した職に就けず、老後の生活の備えが十分できなかったり、地域に助けられず、日常の生活に支障をきたしているケースも少なくありません。

静岡県では国からの委託を受け、このような中国残留邦人等に生活費の支援や日本語学習のサポートなどの支援事業を行っています。

北方領土問題

北方領土は、北海道の東に位置する歯舞群島、色丹島、国後島及び択捉島の四島です。北方領土には、昭和20年(1945年)の終戦時3,124世帯、17,291人の日本人が住んでおり、歴史的に見ても一度も外国の領土になったことがない我が国固有の領土です。

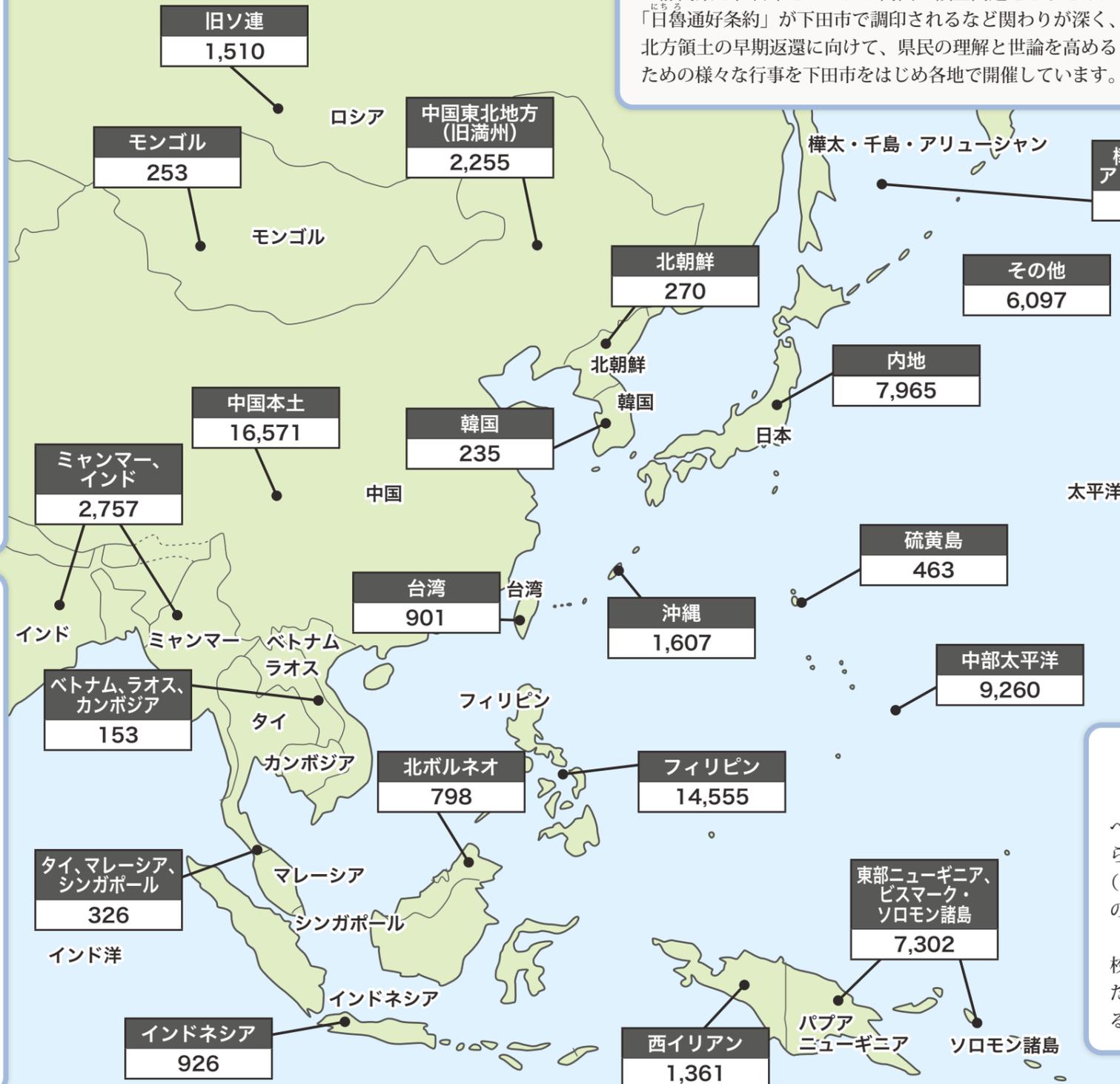
しかし、日本がポツダム宣言を受諾し、降伏の意図を表明したあとにソ連軍が北方四島に侵攻し、日本人島民を強制的に追い出し、現在に至るまでロシアによる不法占拠が続いています。

静岡県は、日本とロシアが両国の領土問題をとりきめた「日露通好条約」が下田市で調印されるなど関わりが深く、北方領土の早期返還に向けて、県民の理解と世論を高めるための様々な行事を下田市をはじめ各地で開催しています。

シベリア抑留

終戦間近の昭和20年(1945年)8月9日、旧ソ連が参戦して旧満州・樺太・千島列島に侵攻し、終戦後、約57万5千人の軍人や民間人を捕虜としてシベリア等に強制抑留しました。抑留期間は最長で11年にも及びました。貧しい食事、厳しい寒さ、劣悪な生活環境、危険で過酷な強制労働などに苦しみながら、5万5千人以上が命を落としました。

抑留中に亡くなられた、静岡県出身の約1,700人を対象とする慰霊碑が平成15年(2003年)に富士市に建立され、毎年11月8日に、慰霊碑の前で慰霊祭が開催されています。



市町別戦没者数・一般戦災死者数（単位：人）

県内各地は100回以上の空襲で焼け野原となり、多くの方が犠牲となりました。

浜松市 プラタナスの木

（浜松駅北口広場、緑化推進センター、浜松城公園）

昭和19年（1944年）12月から昭和20年（1945年）8月まで、27回にもよる浜松への空襲で幹に焦げ跡を残しながらも、2年後の春、奇跡的に3本から発芽しました。戦火の中からよみがえり、市民とともに生きた木として、昭和39年（1964年）6月には「市民の木」と命名され、復興のシンボルとして市民に希望を与え続けています。平成4年（1992年）からは、毎年8月15日に、浜松駅北口広場のプラタナスの前で、「戦争の悲惨さ、平和の大切さ」を伝えていくことをテーマにコンサートが開催されています。



御前崎市 御前崎市遠州灘海岸沿い 陸軍観測所（トーチカ）

砲弾の軌道や着弾等の性能を観測するため、昭和15年（1940年）に掛川市浜野から御前崎市池新田までの東西16kmの遠州灘沿いに、旧陸軍が「遠江射場」として開設しました。

戦後、放置されたままだったトーチカを後世に残すため、令和2年（2020年）に、市内の戦争遺跡を後世に伝える活動を行っている「ふるさとの自然をまもり隊」が保全活動を始めました。雑木林を伐採し、建物内外に大量にあったゴミを片付け、桜の植樹を行い、説明板や案内看板を設置して、市民が立ち寄って戦没者を思い平和を祈る、憩いの場に生まれ変わっています。



島田市 島田市川根町天王山公園内 英霊顕彰慰霊碑

昭和29年（1954年）戦没者343柱を祀る招魂社が建立されましたが、老朽化により平成20年（2008年）に取り壊されました。その跡地に、遺族の新たな心のよりどころとして、平成26年（2014年）にこの英霊顕彰慰霊碑が建立されました。石碑の揮毫は、元内閣総理大臣の小泉純一郎氏の自筆によるものです。石碑の台座には、大井川の源流で採取した原石が使われています。



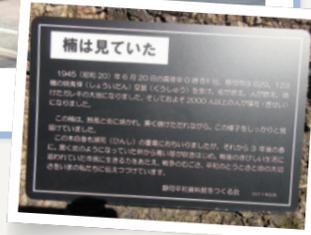
静岡市 安倍川花火大会

昭和28年（1953年）に、戦争犠牲者への慰霊と鎮魂、復興への祈りを込めて始まりました。花火大会の前には、主催者により戦没者慰霊祭が執り行われています。



静岡市 静岡赤十字病院前 クスノキ

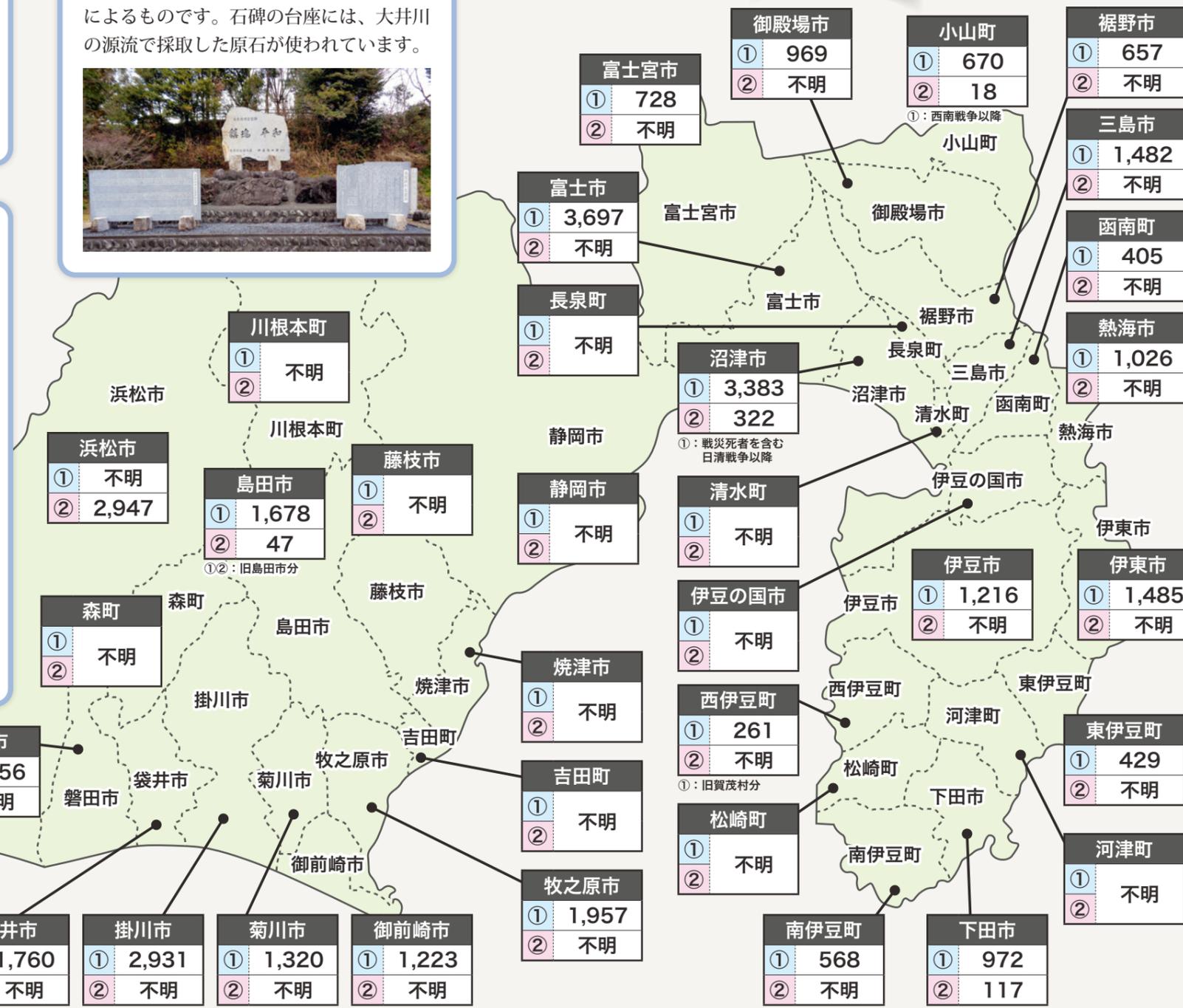
昭和20年（1945年）6月20日未明の静岡大空襲で焼けながら、3年後に焦げた幹から新しい芽を吹き、10メートル以上にまで成長しました。この「奇跡のクスノキ」から挿し木をして育てた苗木のうち1本は、令和4年（2022年）6月、市内の竜南小学校に、子どもたちの手で植樹されました。



御殿場市 御殿場市玉穂小学校内 玉穂忠霊塔

昭和15年（1940年）に、玉穂小学校創立50周年記念事業の一つとして建立されました。日清・日露戦争から太平洋戦争に至る、当時の玉穂村出身の戦死者110柱が祀られています。

終戦後、占領下の日本は連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）により民主化政策を徹底され、この忠霊塔も撤去の対象となりました。しかし、忠霊塔をどうしても残したいという村民の思いを受け、日米講和条約が発効された昭和27年（1952年）までの三年間、「平和塔」と書き込まれた木の箱で忠霊塔を覆い隠し、忠霊塔を守ったという記録が残されています。



①戦没者数 公務上の傷病や勤務に関連した傷病で亡くなった軍人等の数(日華事変(S12.7.7)以降)
②一般戦災死者数 戦争による空襲や艦砲射撃等で亡くなった民間人の数

①②市町調べ

※不明…資料により人数が異なり正確性が不明、資料不存在などの理由による

静岡県の追悼施設・追悼行事

◆ 静岡県戦没戦災死者慰霊標（静岡市）



国のため命を捧げた者及び内外において戦禍により犠牲となった人々の慰霊のしるしとして、永く英霊の遺芳を伝え精神高揚の礎とし、戦争の思い出をこの霊標に封じて平和日本発足の象徴とするため、昭和27年（1952年）10月、静岡県戦没戦災死者慰霊標が建立されました。

静岡県戦没戦災死者春季追悼式 開催時期：毎年4月下旬
静岡県戦没者秋季追悼式 開催時期：毎年10月23日
主催：公益財団法人静岡奉賛会

◆ 沖縄「静岡の塔」（沖縄県糸満市）



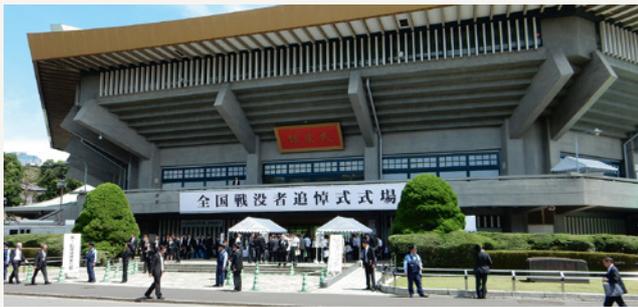
先の大戦において、沖縄及び南方諸地域でその職に殉じた本県出身者約4万人の偉勲をたたえその霊を慰めるため、県民の総意により、昭和41年（1966年）4月、沖縄県摩文仁の丘に「静岡の塔」が建立されました。正碑には富士山の彫刻を施し、祭壇と参道には伊豆石を使用しています。

（銘石碑文）魂は 富士につながる いついつまでも
（静岡県知事 斎藤寿夫）

沖縄「静岡の塔」追悼式
開催時期：毎年11月上旬
主催：公益財団法人静岡奉賛会

全国の追悼行事・追悼施設

◆ 全国戦没者追悼式



先の大戦で犠牲になった310万余の方々に対して、国をあげて追悼の誠をささげ、平和を祈念します。



開催時期：毎年8月15日
開催場所：日本武道館（東京都千代田区）
主催：政府

◆ 千鳥ヶ淵戦没者墓苑（東京都千代田区）



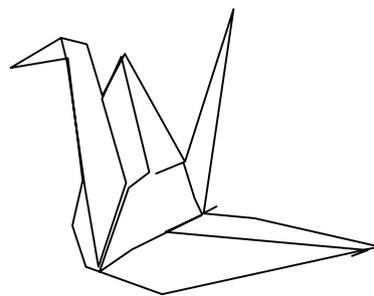
先の大戦で海外において戦没した軍人及び一般邦人の御遺骨を納めた「無名戦没者の墓」として昭和34年（1959年）3月28日に創建されました。令和6年（2024年）5月現在、37万700柱が、六角堂内に安置されています。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式
墓苑に納められている御遺骨に対して拝礼を行うとともに、遺骨収集事業により収容したものの御遺族に引き渡すことのできない御遺骨の納骨を行います。

開催時期：毎年5月下旬
主催：厚生労働省

平和を誓う

— 終戦 80 周年平和祈念式典 —



戦没された方々や御遺族の皆様の平和への願いや長きにわたる御労苦を思い、戦争の悲惨さや平和の尊さを後世に伝えるため、「終戦 80 周年 平和祈念式典」を開催しました。

日 時：令和 7 年 4 月 25 日（金曜日） 午後 1 時～午後 2 時 50 分

場 所：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 中ホール「大地」

主 催：公益財団法人静霊奉賛会、静岡県

参加者：静岡県知事、静岡県議会議長、国会議員、県議会議員、市町長、関係団体、戦没者遺族、戦災死者遺族 など 562 人

(1) 記念講演 平和の語り部による講話（午後 1 時～午後 1 時 50 分）



1. 短歌に託す「母の戦争」 長泉町遺族



2. ひとり二役で頑張った母 藤枝市遺族

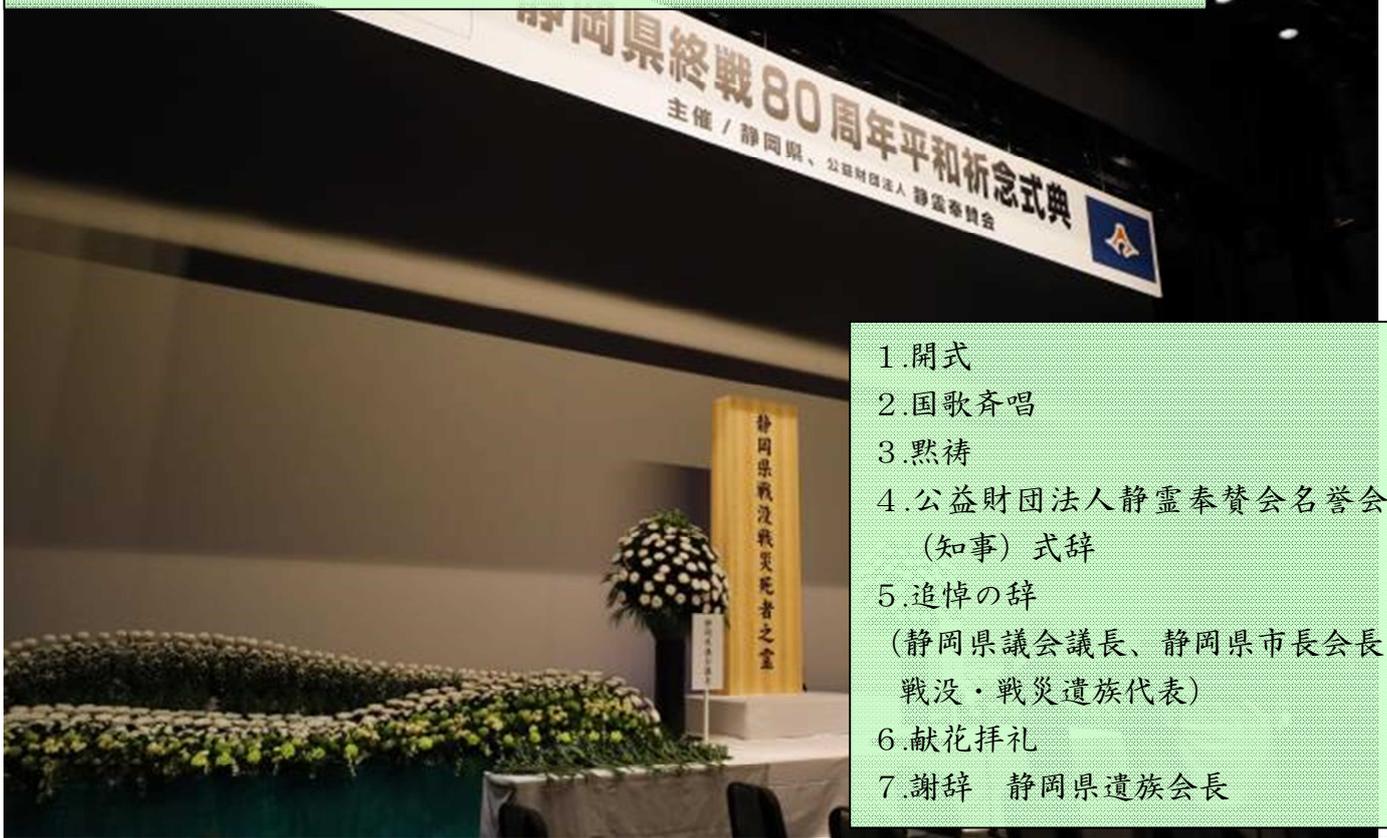


3. 戦後 80 年 父への思い 掛川市遺族



4. 戦中・戦後に体験したこと 御殿場市遺族

(2) 静岡県戦没戦災死者春季追悼式（午後2時～午後2時50分）

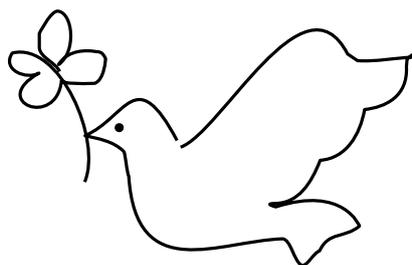


1. 開式
2. 国歌斉唱
3. 黙祷
4. 公益財団法人静霊奉賛会名誉会長
(知事) 式辞
5. 追悼の辞
(静岡県議会議長、静岡州市長会長、
戦没・戦災遺族代表)
6. 献花拝礼
7. 謝辞 静岡県遺族会長

「未来を担う次の世代に平和の大切さを語り継いでいくことを誓う」(鈴木知事 式辞より)



(献花を行う参加者)

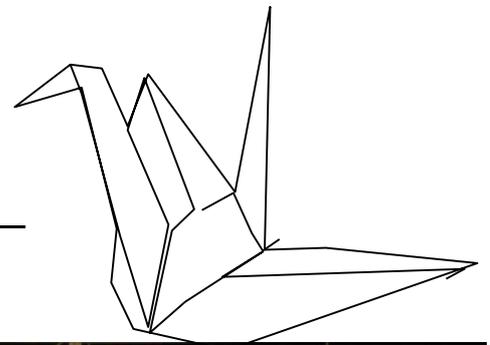


(謝辞 静岡県遺族会長)



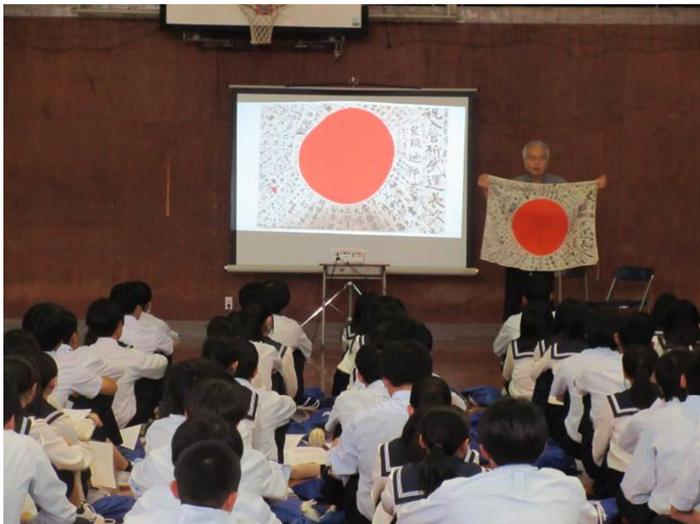
平和への願いを未来へ

—戦争語り部講話を実施しています—



先の大戦における悲惨な経験や、幾多の労苦を後世へ語り継ぐとともに、平和の尊さや命の重さについて戦争を知らない世代へ語る活動を実施しています。

令和7年5月に、県内高校で語り部講話が実施された時の様子を御紹介します。



興味深く耳を傾ける様子の生徒の皆さん

「日章旗」についての説明

参加者の声

生徒の声

「より戦争が身近に感じた。昔の出来事だけで片付けるのは良くないと改めて感じた。」

「歴史の教科書に載っていない、学んでいない部分に触れ、本当に戦争が苦しいものだと思った。」

「初めて戦争をととても身近に感じた。」

「今ある平和は当たり前ではなく、とても幸せなことなので、1日1日を大切に過ごしていきたい。」

「私たちが生まれる前の出来事が今も正確に伝わっているのは、それをつないでいる人の努力だと思う。その努力を無駄にしないように、私も、次に伝えていきたいと思った。」

教員の声

「生々しい話を聞く中で、改めて戦争の実際について考えるきっかけになったと思う。」

「講話を真剣に聞く姿が印象的だった。」





しずおか Shizuoka Prefectural Newsletter

県民だより 8月号



現在の静岡市中心部



昭和20年、戦争で焼け野原となった静岡市の中心部
写真中央にある黒い建物は焼け残った小学校
写真提供：工藤洋三氏/協力：静岡平和資料センター



現在の浜松市中心部



昭和20年、空襲直後の浜松市中心部
写真中央の黒い建物は松菱
写真提供：浜松市立中央図書館

次世代に語り継ぐ 終戦80年を迎えて

8月15日、先の大戦の終結から80年を迎えます。戦地で亡くなった県出身者は7万人以上にのぼり、県内各地は100回以上の空襲で焼け野原になりました。先人たちが築いてきた平和をこれからも守り続けていくため、県では、戦争体験者や御遺族の声を映像記録として残すなど、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に語り継ぐ取り組みをしています。



平和への思い

戦争体験者の声



加藤 源一さん
(100歳/静岡市葵区在住/
シベリア抑留体験者)

戦争は絶対やってはいけない

19歳で召集、終戦後シベリアに抑留されて、酷寒・飢餓の地で重労働を強いられました。故郷や最愛の家族を想いながら耐えに耐え、困窮した生活の中、多数の仲間が無念の死を遂げました。

大切な人を奪い、全てを一瞬にして灰にする「戦争」。戦争が引き起こす悲惨な現実、世界中の人が思い知らされているはずなのに、今なお悲劇は続いています。

体験者として、戦争の記憶を風化させたくありません。世界の紛争やテロが一日も早く終わり、平和が訪れることを願ってやみません。

御遺族の声



増田 幹夫さん
(77歳/御前崎市在住/
父は海軍予科練習生として入隊、
伯父は伊豆諸島近海で戦死)

戦争を知らない私が、父の経験を語り継ぐ

私自身は戦争を知りません。でも、戦争を生き抜いた父がいました。伯父は伊豆諸島近海で亡くなり、いまだ海底に眠っています。父の記憶を語り継ぐこと、それを聞いて「自分に関係があること」と思ってもらおうこと、それが私の使命です。



戦争犠牲者の追悼から始まった花火大会

毎年7月に静岡市で開催される安倍川花火大会は、昭和28年に戦争犠牲者の慰霊と鎮魂、復興への祈りを目的に始まりました。夏の夜空を彩る花火には今もその思いが込められています。



◆戦争を知らない世代に伝える「平和の語り部」

戦没者の御遺族を中心に組織されている静岡県遺族会では、学校などに戦争体験を語り継ぐ「平和の語り部」を派遣しています。戦後80年の節目に平和を考えるきっかけづくりをしてみませんか。皆さまからの御依頼をお待ちしております。

【問い合わせ】 静岡県遺族会 ☎054(261)7796 ✉shizuokaken_izokukai@ybb.ne.jp

その他の御遺族の声はこちらで(8月14日公開予定)



平和を誓う

終戦80周年平和祈念式典



第1部では、平和の語り部4人が、戦没された御家族への思いや平和への願いを語りました。

県と関係団体が主催する式典が、4月25日に行われ、御遺族など約550人が参列しました。

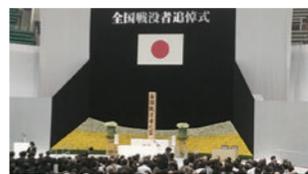


第2部の静岡県戦没戦災死者春季追悼式では、鈴木知事が「未来を担う次の世代に平和の大切さを語り継いでいくことを誓う」と式辞を述べました。

【問い合わせ】 県地域福祉課 ☎054(221)2318 ✉chifuku@pref.shizuoka.lg.jp

県の取り組み

県は追悼式の開催や全国戦没者追悼式などへの参列の他、戦争体験者や御遺族の思いを伝えるさまざまな活動を行っています。



全国戦没者追悼式

先の大戦の戦没者を追悼し平和を祈念する政府主催の式典。毎年8月15日に日本武道館(東京都千代田区)で行われており、県内からも代表者や御遺族の皆さんが参列しています。



沖縄「静岡の塔」追悼式

沖縄県糸満市にある平和祈念公園には、県出身の沖縄戦および南方諸地域の戦没者を祀る「静岡の塔」があり、毎年11月に県主催の追悼式を行っています。

その他の情報や取り組みの詳細はこちら



8月21日は県民の日～静岡県の誕生日～

静岡県を楽しく体験できるイベントがいっぱい!「県民の日」ホームページを見て参加しよう! 詳細はこちら



中国浙江省短期留学プログラム参加者募集中

令和8年3月に、大学生を対象とした中国浙江省への短期語学留学を実施! あなたも「世界で最も美しい街」に行っちゃいな!

詳しくはこちら

